

## 第5回ごみ処理研究部会（第3部会）（要旨）

日 時 平成24年3月23日（金）14時00分  
場 所 南部総合福祉センター 2階会議室  
出席者 部会委員13、事務局4名  
(欠席者：桑江委員、比嘉委員)

### 次 第

開会あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・部会長 新崎政利

1. 県内（南部管内・名護市内）視察を終えて・・・・資料－1
2. ごみ減量化行動計画策定に向けて・・・・・・・・資料－2
3. その他

- ・ごみ減量に向けて具体的な検討をしてほしい。（住民委員）
- ・減量の意識を高めるために計量器を希望者に提供してはどうか。（住民委員）
- ・住民のごみ減量化、リサイクルに対する意識が低い。公用車で周知をしてはどうか。（住民委員）
- ・糸満市では平成21年からごみ減量化にむけ、富士盛産業と連携をとってモデル地区（4地区）を設けて取り組んでいる。その一割は分別ができていない、理解が出来ていないのが現状である。（糸満市）
- ・生ごみについては南部地区は進んでいるのではないかと。継続すればごみ減量に繋がる。（糸満市）
- ・収集業者が事業系のごみ（産廃）を誤って収集していることも考えられるので、事業所向けのパンフレットを作成し正しい出し方、収集を徹底することで事業系のごみも減らせる。（糸満市）
- ・刈り取った草木はごみとしての意識があったが美玉リサイクルセンターで資源として活用しているのを見てごみの意識が変わった。視察を通して参考になるものは今後のサザン協の検討課題、研究テーマとして考えてもいいのではないかと。（部会長）
- ・八重瀬町では美玉の「いっぺーじょうとう君」を24年度予算で購入する予定であり、希望者に提供して婦人会で講習会を開いて生ごみ処理を広げていけたらと考えている。（八重瀬町）
- ・管内の自治会長に県内の施設を見せてもらいたい。無関心な人も多いので施設を実際に見ることでごみ問題に対する認識が変わるのではないかと。（住民委員）
- ・ごみの出し方についていくら指導しても改善は見られない。提案としてごみ袋の価格は変えず大きさを少し小さくしてはどうか。目に見える形で自分の家計に響くような方法でないとごみは減らない。（与那原町）
- ・減量化を進めていく上では16分別は避けては通れないだろう。名護市の「なごころ」の様なリサイクル施設を造ってから16分別を進めていく。（南城市）
- ・サザン協のごみ減量化行動計画と県が打ち出しているごみ排出量削減目標値との整合性。（東部）
- ・

### 【確認事項】

- ① 自治会の視察についてはサザン協で実施するのか市町で実施するのかは今後、担当課と事務局で協議をして部会に報告をする。
- ② ごみ減量化行動計画策定に向けて担当課と調整をし部会で7月～8月を目途に計画書を策定する。